

【選択協議第B】ICT環境を基盤とした先端技術等を活用した新しい学びの実現

高知県における遠隔教育の調査研究の取組について

高知県教育委員会事務局高等学校振興課

I 研究のねらい

本県では、生徒数の減少が続く中で、生徒数が少ないことから、生徒の進路希望に応じた選択科目の設置が困難であったり、多人数との交流の機会が少なかったりするなど、小規模校の高等学校教育の質を維持するという課題がある。その対策として、中山間地域の小規模校においても、多様かつ高度な教育に触れる機会を提供し、教育の質を維持・向上できるよう遠隔教育を導入し、その効果的な実践や活用の方法等に関する研究を行う。

II 研究内容

1 平成27年度～平成29年度の取組

「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」（文部科学省委託）として、遠隔教育における学校体制の構築と生徒の能動的な学習を支援する汎用的な学習指導方法の研究に取り組んだ。具体的には、「本校からの分校支援」「小規模校間の連携」「大規模校と小規模校の連携」をテーマとして年度ごとに調査研究校を拡大し、取組を進めた。

2 平成30年度の取組

「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」として、平成27年度から平成29年度までの調査研究の成果を活かし、遠隔教育の更なる普及・推進を図れるよう、ICT活用（遠隔教育）による中山間小規模校での学力向上のための研究に取り組んだ。前年度までの実践校6校に加え、調査研究校として新たに1校を指定し、7校で遠隔教育を実践するとともに、外部有識者による検討会議（年2回）、「高知県遠隔教育フォーラム」の開催、授業環境（機器設備、ネットワーク環境など）の整備等を行った。遠隔教育として実践した授業・補習等は、次のとおりである。

(1) 高知追手前高等学校と高知追手前高等学校吾北分校

「数学探究」（2単位）、「政治・経済」（2単位）での単独授業（単位認定）

(2) 窪川高等学校と四万十高等学校

「数学B」（2単位）での合同授業（合計41回）

(3) 岡豊高等学校と嶺北高等学校

「古典B」（2単位）での合同授業（単位認定）

(4) 禰原高等学校

「小論文補習」教育センター指導主事から配信（合計5回）

「数学補習」高知追手前高等学校吾北分校から配信（合計4回）

「英語（ディベート）補習」嶺北高等学校から配信（合計6回）

III 研究の成果と課題

さまざまな形態での遠隔教育の実践により、遠隔授業においてもICT機器（電子黒板、書画カメラ、マイク機器など）を活用してアクティブラーニング型などの授業を効果的に実践する手法等について明らかにできた。生徒にとっては、多様かつ高度な教育に触れる機会となり、加えて、遠隔地にいる他校の生徒との交流が生まれ、小規模校における生徒の社会性の育成にもつながっている。一方、課題としては、安定的な通信環境の維持、学校間の教育課程や時間割の調整、授業を実施する教員の確保などが挙げられる。

本年度からは、これまでの研究をもとに対象を中山間地域の小規模校10校に拡充し、令和元年度は大学進学補習を、令和2年度からは単位認定授業を実施する予定である。